

直前 新共通テスト

検討会議、現在は

文科省の大学入試のあり方に関する検討会議は7月末までに12回を数えた。これまで委員以外の外部関係団体、高校生など40人近くに参加して実施した。学校現場で実際に教える教員や受験を控える高校生は、既に入試改革の影響も口にした。コロナ禍による審議の遅れもあり、中間的な報告は夏以降にずれ込む見通しだ。

記述式問題の導入

国語と数学で出題予定だった記述式問題。その導入を巡っては、運営面や技術的な面から困難だとする意見が相次いだ。埼玉県の高田直秀教育長は記述式について、英語の4技能試験の活用とともに、理念や方向性は学術指導要領に沿うものだと認めた。また「共通テストと各大学の個別試験を分けて考える必要がある」とも

各大学での出題を

共通テストで測る力は限定的であるべきとする考えを示した。石川県立金沢東高校の小玉裕介教諭は、国語で本来自ら出題すべき記述式問題は「自己判断を論理的に表現できる、解答が一つとは限らない問題」と述べ、共通テストの試行調査の問題とは趣向が違ったと指摘した。同じく国語科教員の高木崇志(山形県立山形南高校)は「記述式問題を出題するよう要望」「試行調査の問題では、これら(思考力・判断力・表現力)は測れない」とし、受験生の出願大学に送付することも求めた。



試行調査で出題された国語の記述式問題。3問出題される予定だった

格差解消

格差解消について、検討会議では高校生と大学生らが声を上げた。「子どもの貧困対策センター」あすのばーに、関わる北海道情報大学4年の深堀麻菜香さんは「北海道は地理的な事情による地域格差が大きく、受験会場や交通機関がない地域もある」「交通機関は本数が少ない上、雪によるダイヤの乱れも多く、毎年センター試験会場に遅れてしまう生徒も多数いる」と述べ、交通費補助や4技能試験を実施する際の地方会場の充実を求めた。兵庫県立大学附属高校2年の原里さんは、大学の入学金の問題について言及した。「入学金の締め切り

合理的配慮で時間延長も

「格差解消は重要だが、民間試験を導入する一歩決めたのであれば、どう予算をつけるかが重要だ」。「現状の入試でも遠隔地の受験生の負担は大きい。不公平感を完全に解消することは難しい」と述べた。大学が受験生の苦悩まで総合的に評価する形にしなければ解決できない。「センター試験で大きな問題は生じていない。英語の民間試験を活用せず、現行の形を踏襲すれば格差問題はクリアするのではないか」と指摘し、「入試で教育を要

英語民間試験の活用

英語民間試験について、現行通り各大学が活用を決める方法を求める意見が相次いでいる。こうした中、4技能の測定を求める立場から要望が高まっているのが、大学入試センターなど非民間機関による試験の開発だ。鳥取県教育センターの佐藤誠教育企画部長は、英語成績提供システムは異なる目的で作成された複数の試験を活用しようとしたことで、公平性の担保が難しくなったと指摘し「共通テストの枠組みで4技能を評価するのであれば、大学入試センターに作成を求めたい」と。熊本県立八代高校の高木慎二指導教諭は「民間試験の活用ではなく、CEFR

センター作問の要望高まる

も利用せず、大学入試センターが自ら作問する。これに全てを満足させるものはない」と訴えた。兵庫県立姫路西高校の飯内章彦主任教諭は、大学入試センターによる開発を求めた上で、タブレット端末でリスニングとスピーキングの試験を実施する、スピーキングの採点はAIによる採点で公平性や公正性を担保する一実施方法を提言した。関係者によると、民間試験の活用を模索していた早稲田大学を運営するナガセの段階では、複数の団体が永瀬昭幸社長も大学入試センターによる開発を要望し、二つの試験を開発する案が持たれていた。新学習指導要領に対応した試験が始まる2025年(令和7年)1月の試験を、複数の試験を選ぶ方式目標に「まずはオンラインを取らざるを得なくなったのみでも開発してほしい」という。



大学入試センターに英語4技能試験の開発や実施を求める意見が相次いでいる

高校・大学教育と大学入試

今回の大学入試改革の背景には、高校教育の改善を促す狙いがあった。そこで課題とされたのが文法訳読を重視した英語の問題であり、マーク式の試験だった。その改革の柱だった民間試験の活用や記述式問題の導入が問われ、今後の高校教育と大学入試の関係はどうあるべきなのか。東京大学名誉教授の南風原和氏は、英語4技能について「大学・学部によって必要としないところもある」。各大学の民間試験の活用を国が支援することに「介入や誘導とならないように大学の主体性を尊重してほしい」と求めた。また、東京大学大学院の中村高康教授は、主体性評価について「生活全体を入試に絡めて考えざるを得なくなる弊害が生じる」と指摘し、「入試で教育を要

「民間試験に特化した英や講義が少ない地方部では、生徒や保護者の要望を受け、高校の授業の中で特定の検定試験の対策をするようになってしまっている」。「画一的な仕組みをつくるより多様な利用を促進し、大学が責任を持って利用する形にすべき」。「大学が必要な検定で活用すればよい。ただ大学任せでは活用が進まないで、何らかの国の支援が必要」。「英語力はもとより一定の幅で評価すべきもの。試験の段階別評価を受験資格として扱うのが最も適している」

国の支援、促進か介入か

「入試によって高校教育に影響を与えるという発想は必ずしも悪いことではない」。「入試改革で教育を変えようという発想自体、手段と目的に限れば、入試を変えずに高校教育を変えようとするのは困難」

※「直前 新共通テスト」では、「夏の教育セミナー」と連動して来年から始まる大学入学共通テストに向けた授業提案や最新情報を掲載します。

第7回 2020年実施

夏 逆境に勝つ! 大学入試改革の教育セミナー

主催: 日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校)

開催期間 2020年8月10日(月・祝)~16日(日)

※ 昨年は会場実施でしたが、今年はWEBセミナーで開催します。

ご視聴方法 学校や先生方のご自宅から、期間中ご都合の良い時間にオンラインで参加できるWEBセミナー形式です。パソコン・タブレット・スマホから講演動画を視聴できます。

参加無料

好評受付中! お申し込みはWEBで!

お申し込みはこちら

1 教育改革の最新の動きを知る

文科省や大学入試センターの担当者から共通テストの総論と最新情報を聞く!

いよいよ今年度から始まる「大学入学共通テスト」。全体像を深く理解し、最新情報を得ることのできる講演をお届けします。文科科学省からご担当者をお招きし、昨年末より様々な変更があった「大学入学共通テスト」の総論と最新情報を解説いただきます。気になる新型コロナウイルス対応などについてもお話をいただく予定です。

新テスト設計の専門家による講演だからこそ、最新情報をわかりやすく整理してお伝えします。

2 全国の大学の入試動向を知る

あの大学の入試は一体どうなる? 各大学担当者からの情報をまとめて確認

全国の大学のご担当者から、各大学のアドミッション・ポリシーや、今年度入試のポイントなどを解説する講演をお届けします。各地域を代表する国立大学や、多くの生徒が志望する有名私立大学が揃っています。昨年までは、各会場地元大学の講演に参加いただく形でしたが、今年はWEB開催のため、全国の大学の講演をご覧いただけます。

今年度入試の情報が、各大学から発表されています。最新情報を詳しくお伝えします。

3 授業の実践法を学び・深める

共通テストを踏まえて日々の授業はどうなるか。高等学校での実践から学ぶ!

高等学校で実践を重ねている英語・数学・国語の先生を講師としてお招きし、共通テスト解説と、共通テストを踏まえた具体的な授業実践についてご報告いただきます。夏休み明けからすぐに活用できる「授業のヒント」「生徒指導のヒント」が満載です。

授業と入試の結びつき、具体的な授業の進め方についてなど、実践例をお伝えします。

過去のセミナーに参加された先生の声

大学入試改革について、今後の流れがよくわかりました。これから決定されることも多いので、しっかりと情報を集め、生徒に伝えていきたいと思えます。今日のような機会があるとありがたいです。

大学のアドミッション・ポリシーをよく理解することも、我々高校教員に必要であると感じました。その上で進路指導をすることが、生徒と大学のミスマッチをなくすことだと確信しました。

刺激的な転換期にあることを再認識し、生徒たちと共に考え学ぶことの重要性を痛感しました。生徒たちがどのような「未解決の課題」を持って大学に進学するかという観点がとても新鮮でした。

数学的な楽しみを通して教育することの大切さを再認識しました。大人になって知識を忘れてしまっても、数学が「好き」という思いが生徒たちの中に残っていくための教育を研究していきたい。